

(健Ⅱ316F)
令和2年10月23日

都道府県医師会
感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長
釜 菫 敏

今冬の季節性インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症の試行的な
サーベイランスの研究に関する応募について

今般、別添のとおり厚生労働省より標題について各都道府県等衛生主管部（局）宛て事務連絡がなされましたので情報提供いたします。

本件は、下記研究班における発熱等の症状で受診した患者における季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の検査前確率の評価をするためのサーベイランスの有用性を検証する取組について、試験的に実施する自治体を募集するものであります。

なお、本取組に関わらず、引き続きそれぞれの疾患の地域における流行状況の把握に努めていただきますようお願い申し上げます。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、郡市区医師会及び会員に対する情報提供についてご高配のほどお願い申し上げます。

記

- ◆ 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「マスギャザリング時や新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメントに関する研究」（研究代表者：島田智恵）の分担研究
- ◆ 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「新型インフルエンザ等の感染症発生時のリスクマネジメントに資する感染症のリスク評価及び公衆衛生的対策の強化のため研究」（研究代表者：谷口清洲）

事務連絡
令和2年10月19日

各

都道府県
保健所設置市
特別区

 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省新型コロナウイルス感染症
対策推進本部

今冬の季節性インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症の試行的なサーベイランスの研究に関する応募について（協力依頼）

平素より、季節性インフルエンザに係る感染症発生動向調査（インフルエンザ定点）に多大なご協力・ご尽力を頂きありがとうございます。季節性インフルエンザ患者の発生動向については全国約 5,000 箇所の定点医療機関から報告頂いている一方、新型コロナウイルス感染症患者については指定感染症として全数の報告を頂いているところです。季節性インフルエンザの流行期においては、発熱等の臨床所見のみでは季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症のいずれか区別ができない患者が多数発生することが懸念されています。上記の通りインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の患者数をそれぞれ報告頂いているものの、いずれかの感染症を疑う発熱等の症状を有する患者のうち、インフルエンザ又は新型コロナウイルス感染症である実際の陽性患者の割合は不明であることから、地域におけるそれぞれの疾患の流行状況を推測することが難しくなっています。このことは、臨床現場において、発熱患者等におけるそれぞれの疾患の検査前確率の推測が難しくなることにもつながり、地域で適切に検査を実施するに当たって課題となる可能性があります。

今般、研究班（※1）では、三重県において 72 箇所のインフルエンザ定点医療機関等の協力を得て、臨床症状から季節性インフルエンザや新型コロナウイルス感染症を疑う患者における季節性インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症の陽性患者の割合等を計測し、発熱等の症状で受診した患者における季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の検査前確率の評価をするためのサーベイランスの有用性を検証する試みが始まりました。

また、令和2年10月9日に開催された第48回厚生労働省厚生科学審議会感染症部会において、三重県における本取組を、研究班（※2）の技術的支援の下、他の自治体でも試験的に実施することについて賛同いただきました。

つきましては、このサーベイランスの取組を試験的に実施する自治体を応募いたしますので、別紙を確認の上、御検討・御参加の程よろしくお願いたします。

※1 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「マスクギャザリング時や新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメントに関する研究」（研究代表者：島田智恵）の分担研究

※2 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「新型インフルエンザ等の感染症発生時のリスクマネジメントに資する感染症のリスク評価及び公衆衛生的対策の強化のため研究」（研究代表者：谷口清洲）

季節性インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症の試行的なサーベイランス研究の事業内容と応募方法について

1. 応募方法等について

- ・ 日程：令和2年10月23日（金）まで応募を受け付けます。協力意向のある自治体については、下記の照会先までご連絡の程お願いいたします。その後、厚生労働省及び研究班と連携・調整しながら準備を行い、令和2年11月初旬～中旬から、サーベイランスを試験的に実施することを目指します。
- ・ 募集単位：都道府県、保健所設置市又は特別区（都道府県等でとりまとめていただく必要はございません。）
- ・ 募集自治体数：5～10団体程度を想定。

照会先：

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部戦略班 岡

Tel: 03-3595-3489

Mail: oka-kuniko.2e5@mhlw.go.jp

2. 協力自治体の役割について

- ・ 管内のインフルエンザ定点医療機関に対し、下記3.の「協力医療機関の役割について」を周知し、今般のサーベイランスの実施について協力をいただけるよう合意を得ていただく。なお、協力いただく医療機関については、全てのインフルエンザ定点医療機関であることが望ましいが、感染症指定医療機関など拠点病院に限った協力でもかまいません。（参考：三重県で使用したインフルエンザ定点医療機関宛ての事務連絡）
- ・ 研究班（※2）と相談の上、下記のいずれかの方法でデータの収集・解析を行う。（期間中に切り替えることも可）
 - ① 協力医療機関を研究班（※2）に紹介し、当該医療機関からデータが研究班に提出されるよう調整を行う。データは、当該研究班において解析され、自治体及び医療機関へフィードバックされる。
 - ② 研究班（※2）の技術的支援を受けながら、自治体が独自に医療機関からデータを収集し、解析した後に医療機関へフィードバックする。（三重県の場合、三重県感染症情報センターが実施）

3. 協力医療機関の役割について

- ・ 以下の項目について報告様式に記載し、週報としてExcel、FAX等で送

付。送付方法は別途調整いただくことになり、報告項目に個人情報は一切含まれません。

(指標)

別添様式例（三重県使用）に基づき、以下の項目のデータを提出する。

- ① インフルエンザの年齢群別・性別患者数（通常の枠組みと同様）：症状からインフルエンザと診断できる患者、迅速診断キット施行の有無については問わない。
- ② コロナ様疾患年齢群別患者数：上気道炎と診断できる患者でインフルエンザとは思われない症例、コロナ様の嗅覚・味覚障害のある患者を含む、発熱の有無は問わない。検査の有無は問わない。
- ③ インフルエンザ迅速診断キット施行数、陽性数、陰性数
- ④ 新型コロナウイルス検査施行数、陽性数、陰性数、結果待ち数（自施設、地区 PCR センター、保環研、民間検査施設を問わない）。陽性であれば、別途保健所に届出。

(参考) 研究班又は自治体で解析する内容

- ① インフルエンザ様疾患（※1）におけるインフルエンザ陽性率（＝インフルエンザ迅速検査陽性者数／インフルエンザ迅速検査施行数）
- ② インフルエンザ様疾患における新型コロナウイルス陽性率（＝新型コロナウイルス検査陽性者数／新型コロナウイルス検査施行数）
- ③ 新型コロナウイルス様疾患（※2）におけるインフルエンザ陽性率（＝インフルエンザ迅速検査陽性者数／インフルエンザ迅速検査施行数）
- ④ 新型コロナウイルス様疾患における新型コロナウイルス陽性率（＝新型コロナウイルス検査陽性者数／新型コロナウイルス検査施行数）
- ⑤ 新型コロナウイルス鑑別対象患者数（＝インフルエンザ様疾患＋新型コロナウイルス様疾患）
- ⑥ 新型コロナウイルス鑑別対象患者数におけるインフルエンザ陽性率（＝インフルエンザ迅速検査陽性者数／（インフルエンザ様疾患＋新型コロナウイルス様疾患のうち検査施行数））
- ⑦ 新型コロナウイルス鑑別対象患者数における新型コロナウイルス陽性率（＝新型コロナウイルス検査陽性者／（インフルエンザ様疾患＋新型コロナウイルス様疾患のうち検査施行数））

※1 インフルエンザ様疾患：突然の発症、高熱、上気道炎症状、全身倦怠感等の全身症状

※2 新型コロナウイルス様疾患：インフルエンザ様疾患以外の上気道炎（発熱の有無は問わない）又は味覚・嗅覚障害

医 保 第 0 6 - 3 8 3 号
令 和 2 年 9 月 1 5 日

県内インフルエンザ定点医療機関の長 様

三重県医療保健部
薬務感染症対策課長

今冬のインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の混合流行に備えた
感染症発生動向調査における追加調査について（協力依頼）

平素は、感染症発生動向調査事業に多大なるご協力を賜り厚くお礼申しあげます。

さて、別紙のとおり国立病院機構三重病院臨床研究部長 谷口清州先生から協力依頼がありましたこのことについて、お忙しいところ誠に恐縮ですが地域の流行状況を把握するため、当面の間、本追加調査についてご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

つきましては、毎週報告いただいております、感染症発生動向調査（インフルエンザ定点）の別記様式 7-2 を改定いたしましたので、本年第 4 0 週（9 月 2 8 日から 1 0 月 4 日）の報告分から改定後の様式で報告をお願いいたします。

※ 本調査は、令和 2 年度厚生労働行政推進事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）「マスギャザリング時や新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメントに関する研究（H30-新興行政-指定-004）」の分担研究となっております。

研究代表者 島田智恵 国立感染症研究所

事務担当 〒514-8570

三重県津市広明町 1 3 番地

医療保健部 薬務感染症対策課

感染症対策班 小掠 剛寛

TEL : 059-224-2352

FAX : 059-224-2344

令和二年 9月 4日

感染症発生動向調査 インフルエンザ定点医療機関 御中

今冬のインフルエンザとコロナウイルス感染症 2019 の混合流行に備えて
感染症発生動向調査インフルエンザ定点サーベイランスにおける追加調査へのお願い

拝啓

晩夏の候、先生方におかれましては、いよいよご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、COVID-19 のパンデミックのなか、今冬にインフルエンザと COVID-19 の流行が併存すれば、両者を臨床的に鑑別することはできず、インフルエンザのハイリスク者には抗ウイルス薬を処方することが必要である一方、COVID-19 であれば、院内感染や家庭内感染、そしてやはりハイリスク者における重症化も考えなければなりません。このため、今冬に上気道炎症状あるいはインフルエンザ様症状があれば、検査診断が不可欠と考えられます。

一方、これらの病原診断には、咽頭拭い液を採取する必要があり、また唾液を採取するにしても一定の感染防止対策が必要なため、必ずしもどの医療機関でも可能というわけにはいきません。一方では、これは地域の流行状況に大きく依存し、これがわかっているならば、すなわち、COVID-19 がほとんど検出されていない状況であれば、通常の季節と同じようにインフルエンザを疑って検査をすることが可能になりますし、現状のオーストラリアの様にインフルエンザが全く流行していないということであれば、あらためて検査を行う必要がないということも考えられます。

このような状況下、今冬は地域におけるサーベイランスにより流行状況をしっかり把握し、地域にどのくらい SARS-CoV-2 のリスクが存在するのか、インフルエンザの流行があるのかを地域全体で共有していくことが極めて重要になります。

現在冬の南半球では、基本的に臨床定義によるインフルエンザ様疾患の報告とそのなかでの病原体検査によりインフルエンザの流行状況が調べられており、これは一般医療機関ではリスクのある検査を行わず、インフルエンザあるいは COVID-19 を疑う症状のある患者数だけを報告し、体制の整った医療機関において検査を行うという形で行われています。これにより、その地域での流行状況を把握することが出来、これを速やかに共有することにより、地域の医療機関は流行に応じて患者への対応を行うことができます。

そこで、国立感染症研究所感染症疫学センター第二室、三重県医療保健部薬務感染症対策課感染症対策班、三重県保健環境研究所と技術的な調整を行い、三重県医師会のご支援を得

ることもできましたので、研究班(令和2年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「マスクギャザリング時や新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメントに関する研究(H30-新興行政-指定-004)」研究代表者 島田智恵 国立感染症研究所)の枠組みとして、インフルエンザ定点サーベイランスに伴って追加的な調査を行うことを計画しています。これには、厚生労働省結核感染症課からも了解をいただいております。

実際には、通常の調査用紙を添付のように変更してご報告頂き、定点の先生方には、以下の様にご報告頂ければと考えます。

- 1) インフルエンザの年齢群別・性別患者数(通常の枠組みと同様): 症状からインフルエンザと診断できる患者、迅速診断キット施行の有無については問わない。
- 2) コロナ様疾患年齢群別患者数: 上気道炎と診断できる患者でインフルエンザとは思われない症例、コロナ様の嗅覚・味覚障害のある患者を含む、発熱の有無は問わない。検査の有無は問わない。
- 3) インフルエンザ迅速診断キット施行数、陽性数、陰性数
- 4) 新型コロナウイルス検査施行数、陽性数、陰性数、結果待ち数(自施設、地区PCRセンター、保環研、民間検査施設を問わない)。陽性であれば、別途保健所に届出。

三重県感染症情報センターにてデータ解析を行い、週間インフルエンザ患者数、コロナ様患者数、それぞれのインフルエンザ陽性率、新型コロナウイルス陽性率を還元して頂くこととしております。このデータは厚生労働省結核感染症課からも共有を依頼されております。

以上、お忙しいところ恐縮ですが、よろしくお願い申し上げます。

敬具

国立病院機構三重病院臨床研究部

谷口清州

TEL 059-232-2531

FAX 059-232-5994

E-mail: tngk7g04@gmail.com

感染症発生動向調査（インフルエンザ定点）

調査期間 令和 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名：

年齢群	0～5 ヶ月	6～ 11ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～	15～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80歳 以上	合計	
												14	19	29	39	49	59	69	79			
インフルエンザ ^{注1)} (症状定義： 38.0℃以上発熱、 上気道症状、全身 症状)																						
上記以外上気道炎 (コロナ様疾患含む) ^{注2)} (発熱、あるいは上気道 症状、味覚/嗅覚障害)																						

(注1) 感染症発生動向調査からインフルエンザと診断した症例を除く。インフルエンザ迅速診断キット施行の有無を問わない。

(注2) 症状から臨床的にインフルエンザと診断できない上気道炎症例およびコロナウイルス感染症を疑う症例数

インフルエンザ迅速診断キット判定状況報告欄（使用キット名：_____）

迅速診断検査例数	迅速診断キット陽性数			迅速診断キット陰性例
	A陽性	B陽性	A・B共に陽性	

コロナウイルス検査例数	陰性例数	陽性例数	結果待ち（翌週報告）

備記事項